



写真1:中百舌鳥図書館の貴重書庫に収蔵されている山崎文庫。白いボール紙の表紙を付けて、和綴じされたものがペン写本である。

研究の軌跡をたどる—山崎文庫と児山文庫と—



大阪公立大学中百舌鳥図書館には、大阪女子大学とさらにその前身である大阪府女子専門学校に関係する蔵書が、引き継がれている。そのなかには、それらの学校で教鞭を執っていた教員に由来する文庫が存在する。今回はその中からふたつの文庫について紹介することにした。ひとつは山崎文庫、もうひとつは児山文庫である。

山崎文庫(写真1)は、大阪女子大学教授であった山崎喜好氏(1908~1957)の約1200冊からなる蔵書で、『山崎文庫目録』も刊行されており、学界周知の資料である。49歳の若さで亡くなった山崎氏は、俳文学の研究者として活躍し、『芭蕉研究』の編集・刊行に携わったことや『鬼貫論』などで知られている。本文庫の特徴は、俳文学に関係する古典籍を有することもさることながら、山崎氏ご自身、あるいは氏と縁のある人の手になる新写本が多く含まれるところにある。さまざまな文庫に足を運び、それを書写する、あるいは研究者仲間から、本を借りて来て書写するなど、実に多くの資料が新しく書写されて残されているのである。万年筆によるペ

ン写本(翻字されたもの、写真3)を中心とするが、和紙に墨で写したものもある。書籍の上に薄い用紙を置いて写す「透き写し」により、一見、江戸期の写本に見紛うものもあるが、書き込まれた注記などから、新しく写されたことが確認されるのである(写真2)。現在はコピー機やデジタルカメラで複写は簡単にできるが、当時としては機器の性能も十分ではなく、「書写」するしかなかったのである。山崎氏が亡くなられたのは、前述したように49歳であった。30年に満たない研究生活で、これほど多くの俳書を書写されたのかと驚くばかりである。既に山崎氏の死後、50年以上経っている。今後は俳諧研究のために、これらを利用するだけでなく、俳諧研究の研究史を構築するために、このペン写本のもつ資料性を考える必要があろう。山崎氏による多くの書き込みは、研究史を辿るうえで、すこぶる有効であると思われる。

もうひとつの児山文庫は、東京帝国大学出身で、大阪府女子専門学校で教鞭を執り、わずか32歳で早逝した児山信一氏(1900~1931)の蔵書である。ご遺族により大阪府女子専門学校に寄贈され、大阪女子大学へと引き継がれ、2回の統合を経て、大阪公立大学の蔵書となっ



大阪公立大学・高専基金へのご寄附のお願い

お申込み時に「特定プロジェクトのために:⑨-3、⑨-7」を選択してください。(⑨-3:1号館ミュージアム構想のために ⑨-7:大阪府立大学創基140年事業のために)

【お問い合わせ】 渉外企画課 TEL: 06-6605-3415
<https://www.omu.ac.jp/fund/>

編集発行
大阪公立大学 大学史資料室
協創研究センター・大学史編纂研究所
杉本キャンパス学術情報総合センター6階 (大学史資料室)
Tel : 06-6605-3371 E-mail : gr-gakj-archives@omu.ac.jp



写真2

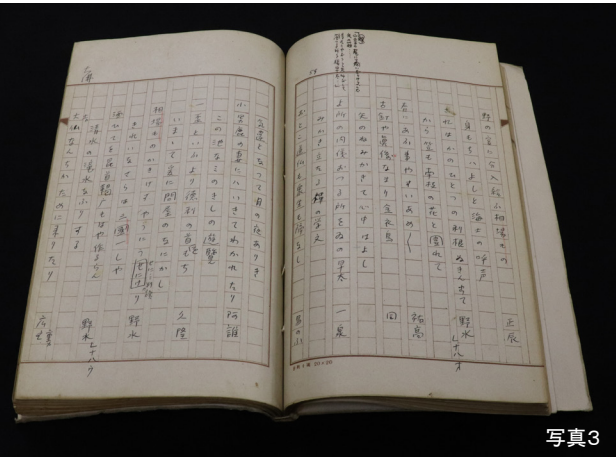


写真3



写真4



写真5

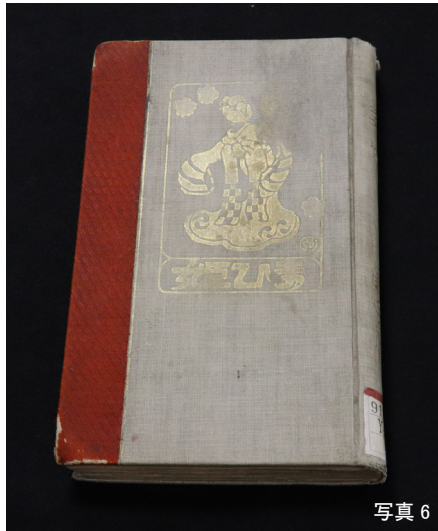


写真6

写真2・3：山崎文庫 写真2：山崎文庫の墨書による写本。『熱田宮雀』（延宝五年（1677）成、天和元年（1681）序、刊年不明）。上冊の末尾に「昭和十五年一月三日写了 / 上巻 石田先生写本ニヨル / 下巻 八高 下郷文庫原本ニヨル」（/は改行）と記されている。八高とは旧制第八高等学校（名古屋大学の前身）である。和紙に墨で写されており、一見、江戸期の写本のように見えるが、この注記により、昭和に入ってからの新写本であることがわかる。この本は熱田神宮に関する発句を収めている。 写真3：山崎文庫のペン写本。岡西惟中の俳諧書『近來俳諧風体抄』。「延宝七年（1679）梅林逸人跋、大坂・深江屋太郎兵衛板」の酒竹文庫所蔵の版本をペンで写したもの。本文の冒頭に「酒竹文庫（宮本氏→古瀬氏写本ニヨル）」と記されている。 写真4～6：児山文庫 写真4：児山信一氏の著書『新講 和歌史』。児山氏にはこの他にも『日本詩歌の体系』（1925年、至文堂）、歌集『夜あけの霧』（1929年、水鏡社）などの著書がある。 写真5：与謝野晶子 歌集『青海波』（1912年、有朋館）。 写真6：与謝野晶子 歌集『まひ姫』（1906年、如山堂書店）。 児山文庫に所蔵される明治期の歌集は必ずしも美しいものばかりではない。当時同僚であった風巻景次郎氏が一緒に古本屋を漁ったことを回想している。研究のために収集したので、新刊や美品である必要はなかったであろう。

た。そのほとんどが明治期以降に刊行された歌集で、全体で654冊になる。児山氏には、『新講 和歌史』（1931年、大明堂書店、写真4）という著書がある。和歌研究といえば、古典和歌の研究であり、明治以降の和歌について言及されることはほとんどなかった。そのなかで児山氏のこの著書は、「近代」の章を設け、明治以降の短歌をも含めて「和歌史」を構想している。当時としては画期的なことであったと付度される。『国語と国文学』という雑誌に児山氏は論文を発表していたが（確認できるのは16本）、そもそもは西行を中心に中世和歌の研究から出発し、や

がて万葉集についても論文を発表し、さらに与謝野晶子の短歌についても研究を進めている。『新講 和歌史』は、これらの成果が踏まえられている。児山文庫に残された明治期の歌集（写真5・6）は、「近代」の和歌史を執筆するための基礎資料として集められたのである。

ともに研究の志半ばで亡くなった二人の研究者の蔵書が、大阪公立大学に残されているということが、真の意味をもつためには、これらの文庫を通して、故人の業績を偲ぶだけでなく、その研究の志をも継承していく必要があるだろう。（国際基幹教育機構 西田正宏）



資料室だより

◆大阪公立大学発足にともなう「大学史資料室」設置を機に、「大阪公立大学 大学史資料室 NEWS LETTER」を発行することになりました。大阪公立大学の貴重な学術資料を紹介する方針です。◆この「NEWS LETTER」は、大阪市立大学「140周年展+大学史資料館（大学博物館）設立準備 NEWS LETTER」の後継紙であり、「大学の知を発掘！」の番号を引き継いでいます。両紙とも大阪公立大学 図書館ホームページの機関リポジトリで公開しています。

大学史資料室からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→杉本キャンパス学術情報総合センター 6階 大学史資料室

Tel：06-6605-3371